

春一番



1月11日に確認したトウキョウサンショウウオの産卵(卵のうの様子)

最も早い産卵

今年は強い寒波が全国的に広がっている冬でしたが、現時点では東京都の積雪はとて少ない状況です。また、年明けから2月中旬まで雨量も少なく、とても乾燥した冬となりました。そんな雨の日が少ない中、とても早い段階でトウキョウサンショウウオが産卵し始めたエリアがありました。

卵のうを確認したのは1月上旬で、7年間のトウキョウサンショウウオ調査の中では最も早い産卵になります。乾燥した冬としては珍しい出来事であると思いました。

そして2月20日には、やっと本格的な雨が降り、春が始まったように感じました。

乾燥しても・・・

1月や2月の乾燥日が長引いた影響で、やはりアカガエルなどの両生類は、なかなか活動しませんでした。アライグマなどの外来種対策関係で仕掛けているセンサーカメラには、食べ物が少なく寂しそうにうろろする哺乳類が映りました。実も、蛙も、昆虫も少ない時期でした。

そんな中、河川敷でカモ調査を行っている途中、乾燥していた畑などに時折カラスやムクドリがたくさん集まる様子を見かけました。彼らは、放置されたカピカピの農作物や、今後の農作のための土地の準備で掘り起こされる根っこや生き物など、獲物が採れるチャンスを見逃さない鳥類です。そして時には、厄介な存在にもなります・・・。

ムクドリは、長時間かけて乾いた土の中や畑周辺の水路の隙間、物体の下などで獲物を探します。そして時々、土に潜って隠れている蛙などを掘り当てます。ピンゴ！



乾燥が続いた日、アマガエルを見つけてくわえるムクドリの様子(2月9日、秋川河川敷にて)



2月1日、あきる野の丘陵地で確認したサンショウクイ(亜種リュウキュウサンショウクイと見られる)

「ヒリリリ、ヒュリリリ・・・」という鳴き声を耳にして、「まさか、サンショウクイ」と思って近くのコナラ・ヤマザクラ林に目を向けたら3羽いました。天気は晴れ、気温は約6℃でしたが、夏鳥と言われてきた「サンショウクイ」がそこにいました。

[パブロ]



今回のスター「サンショウクイ」

数十年前から、サンショウクイという夏鳥(あきる野では夏に飛来する野鳥)が減少していると言われていました。環境省では絶滅危惧Ⅱ類と指定し、東京都では特に数が少ないため、絶滅危惧IA類(CR)としています。このサンショウクイに対するデータは不足していますが、2亜種に分かれていることがわかってます。かつて、本州などで見られた夏鳥の亜種サンショウクイと南九州に生息していた亜種リュウキュウサンショウクイです。しかし、これらの生息が変わって来ているようで、亜種サンショウクイは個体数が減少している一方、亜種リュウキュウサンショウクイは分布を拡大しています。近年、亜種リュウキュウサンショウクイは徐々に北上し、本州で見られるようになりました。今では東京都周辺でも確認されています。本来、温帯気候に好んで生息する野鳥のため、冬季に東京都まで飛来するに至った分布拡大はとても不思議に思います。虫などを好むサンショウクイが昆虫の少ない場所に飛来することには、いったいどんな意味があるのでしょうか・・・

2亜種の生息に差が生まれているのは、何かのチャンスを狙うただの進化の傾向かもしれません。そして、それは生物多様性の基礎となるメカニズムの一つです。